

めぐりと紫波

◇◇◇環境マイスター養成講座の取り組み◇◇◇

紫波町では、100年後の子どもたちに良好な環境を引き継ぐことを目指し、「2021 環境・循環基本計画」を策定し、町の皆さんとともに「循環型まちづくり」を進めています。この目的を達成するため、地域における身近な環境を評価し、環境保全活動の水先案内人としての役割を担う「環境マイスター」を養成しています。



町長講話



エコ3セツタ-見学



浄化セツタ-見学

今年度は、全6回の講義が行われ、修了した4名が「環境マイスター」として新たに認定されました。これにより認定者は222名になりました。

認定後は、養成講座で感じたこと、学んだことを生活に取り入れ、環境学習、環境保全活動のコーディネーターとして地域などで活躍されることが期待されます。



環境マイスター養成講座修了生の皆さんと熊谷町長

サザエさん一家と学ぼう！「森林の環(もりのわ)応援団」

農林水産省では、日本の豊かな森林資源と循環利用について知ってもらうため、今年4月にサザエさん一家に「森林の環(もりのわ)応援団」を委嘱し、楽しくわかりやすい普及啓発活動を行っています。

今号では、その活動の中から、農林水産省 Web マガジン掲載された「意外と知られていない日本の森林・木材」のクイズについて、その一部をご紹介します。



Q

割り箸の使用量が増えた結果、森林破壊が進んでしまったってホント？

1・ホント 2・ウソ



割り箸は日本の食文化には欠かせない存在だけど、どうしても木材を無駄にしているような気がしてねえ……



母さん！
ちがうのよ、誤解なの。
答えは「2・ウソ」。

割り箸は、資源を有効活用するために生まれた製品なの。建築材をとった残りの端材や間伐材など、本来は捨てられてしまう材料から作られているのよ。だから、「森林破壊」や「はげ山」などの問題とは次元が違うものなの。むしろ、日本の割り箸の生産は山村経済の活性化にもつながるし、間伐等の森林の手入れを促進してくれるわ。でも残念なことに、現在日本で使われている割り箸の97%は外国産。安価に輸入されるようになったことが主な理由なの。荒廃が目立つ今の日本の森林を、CO2をたっぷり吸収する健全な森林に作り変えるためにも、木材を使うことは大切なことなんですって。



国産材の割り箸は、
環境にやさしい製品ってことなのね！

サザエさん一家
「森林の環応援団」
活動記録

こちらからご覧いただけます ⇒





紫波町内でエコな取り組みをしているエコ・ショップ
しわ認定店をシリーズで紹介しています。
今号では有限会社紫波印刷をご紹介します。

当店は
環境を守る
エコ・ショップです！



◆◆ 有限会社 紫波印刷 ◆◆

1956年創業の紫波印刷は、事務用印刷物・チラシ・記念誌・カレンダーなどの印刷のほか、記念品や販促物、クラフト市出店等と幅広くお客様のニーズに応え『印刷』を届けています。



ここがエコポイント!!

- ◆紙は分別して業者へ渡し、リサイクルへ
- ◇タオル印刷の端材は、清掃に利用
- ◆当店設置のガチャ機のカプセルは、回収して再利用
- ◇作業場の蛍光灯は、可能な限りLEDに切換え

2023 辰年
年賀状のご注文を
お承りします♪

11月1日より

場 所：紫波町星山字樋ノ口 90-8
TEL：019-672-3104
FAX：019-672-3105



江戸時代に学ぶエコ生活 その2

省エネ・節電豆知識

250年以上続いた江戸時代。電気やガスはないそのころ、人々は資源を大切に使い、リサイクルに努めていました。その江戸時代の暮らしから現代にも活かせる暮らしのヒントを学びましょう。

現代にも活かせる江戸時代の「エコな習慣」

江戸時代のエコな暮らしは「時代が違うし、同じように生活するのは難しいのでは」と思った方もいるのではないのでしょうか。

確かに江戸時代と全く同じ暮らしをすることは難しいですが、いくつかの習慣を参考にし、現代の私たちの暮らしに活かすことは十分に可能です。たとえば、近年改めて注目を集めているのが、江戸時代の人々のマストアイテム「風呂敷」です。

レジ袋有料化以降はエコバッグを持ち歩く人が増えてきましたが、それと同時に風呂敷人気も高まっています。風呂敷は荷物の形や大きさととられることなく、1枚で包んで持ち運べるというメリットがあります。

単に「包む」だけでなく、アレンジによってカバン、お弁当包み、ワインボトル包み、そしてもちろんエコバッグなど、多種多様な使い方ができる点も魅力です。何より洗って何度でも再利用できるというのが、エコな暮らしにぴったりです。

他にも、買い物する際は予め買うと決めていたものを必要なだけ買う、外出用のTシャツが擦り切れてきたらすぐ捨てずに寝巻にするなど、今までの習慣を少し見直すだけでも、循環型社会の実現はぐっと身近になるはずです。

